

バイオスタウン構想分析DB

[【リンク】高原町](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口	面積
		公表回	公表年月日			(人)	(km ²)
46	2011.03.31			宮崎県	高原町	10,623	85.38
構想の要約		高原町は、バイオマス資源の自給率を高めながら、地域循環型社会の形成を目指す。従来型変換システムとして家畜排せつ物等のバイオマス資源を利用した堆肥化や炭化を進め、新たなシステムとしてエネルギーとマテリアルの同時並行生産を可能にし、かつ、処理に必要なエネルギーをできるだけ自給できる「エネルギー自立型」、処理残さも利用し尽くす「ゼロエミッション型」の変換システムを取り入れた『バイオマスコンビナート型複合変換施設』の整備を図る。					
構想に盛り込まれた事業		①家畜排せつ物のエネルギー利用による適切な耕畜連携・循環の形成 ②行政管理の一般廃棄物系バイオマス資源利用による行政コストの削減 ③バイオ液体燃料の製造 ④町民参加を可能とするバイオマス原料買い取り制度等の創設					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物	
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部			
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材	○		
廃食用油		果樹剪定枝			
水産加工残さ		竹材	○		
製材工場等残材	○	その他()			
建設発生木材	○				
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○				
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など	○				
その他()					

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	○
飼料化	○	直接燃焼	○
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他(敷料、竹パウダー、オリゴ糖、精油)	○	炭化	○
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	○
		バイオディーゼル燃料化	
		バイオエタノール化	
		その他(蒸煮爆砕、熱分解液体合成)	○

バイオスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2011.03.31	2011.03.31バイオスタウン構想公表

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

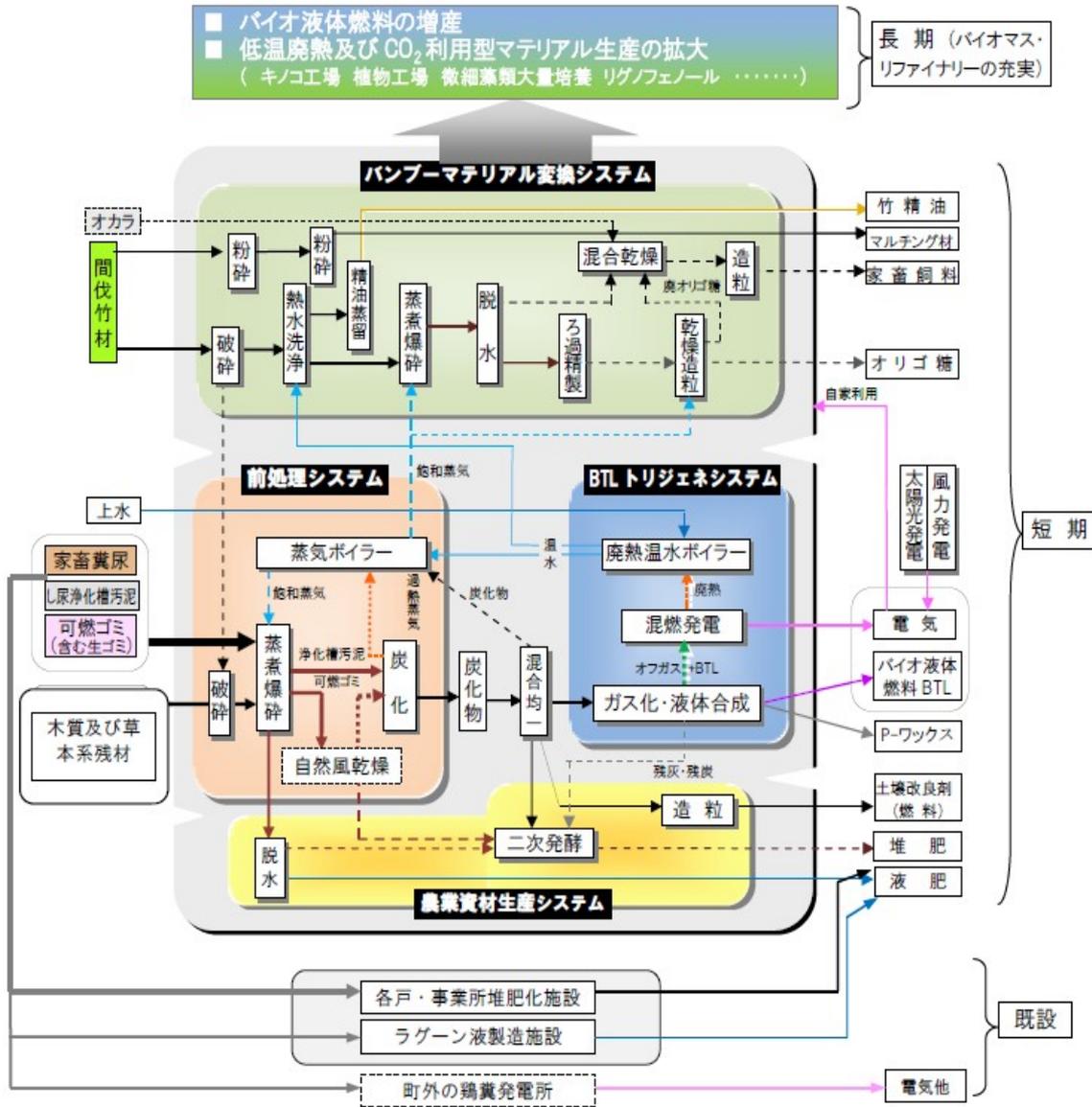
バイオマス利活用目標
(バイオマスタウン構想書からコピー)

バイオマス	現在の利活用状況				今後の利活用目標			
	賦存量 (t/年)		変換処理方法	利用率(%)	仕向け量 (t/年)		変換処理方法	利用率 (%)
	湿潤量	炭素換算量			湿潤量	炭素換算量		
廃棄物系バイオマス	142,236	13,621		96.9	141,638	13,489		99.0
家畜排せつ物 計	132,791	10,686	-	100.0	132,791	10,686	-	100.0
乳用牛	15,092	1,039	堆肥(厩肥)	100.0	15,092	1,039		100.0
肉用牛	91,688	6,313	堆肥(厩肥)	100.0	91,688	6,313	既存変換利用	100.0
豚	21,147	2,666	堆肥(厩肥)	100.0	21,147	2,666	+蒸煮爆砕+炭化	100.0
ブロイラー	4,186	527	堆肥	100.0	4,186	527	+熱分解液体合成	100.0
採卵鶏	678	140	ガス化発電	100.0	678	140	+液肥化	100.0
生ごみ 計	454	124	-	0.0	454	124	-	100.0
事業系	7	2	委託処理(焼却)	0.0	7	2		100.0
家庭系	447	122	えびの美化センターで焼却	0.0	447	122		100.0
可燃ゴミ	556	152	却	0.0	556	152	蒸煮爆砕+炭化	100.0
し尿浄化槽脱水汚泥	186	13	-	0.0	186	13	+熱分解液体合成	100.0
浄化槽脱水汚泥	129	6	焼却	0.0	129	6		100.0
し尿脱水汚泥	57	7		0.0	57	7		100.0
木質系残材 計	8,249	2,647	-	95.0	7,837	2,515	-	95.0
建設系残材	418	154	チップ化(ペレット燃料 数量 ポイラー燃料等)	95.0	397	146	既存利用	95.0
製材加工残材	7,808	2,487		95.0	7,418	2,363	+蒸煮爆砕+炭化	95.0
剪定枝刈草類	23	6		95.0	22	6	+熱分解液体合成	95.0
未利用バイオマス	7,255	2,428		34.3	5,939	2,043		84.1
農業系残材 計	2,692	875	-	95.0	2,668	832	-	95.0
稲わら	2,133	700	敷料 堆肥	95.0	2,026	665	敷料 堆肥	95.0
籾殻	547	171	敷料 堆肥	95.0	520	163	敷料 堆肥	95.0
麦わら	12	4	敷料	95.0	11	3	敷料	95.0
林業系残材 計	1,971	868	-	0.0	1,971	868	-	100.0
切捨丸太	648	317	現在林地放置	0.0	648	317		100.0
末木	141	59	(H23よりペレット燃料化予定)	0.0	141	59	木質ペレット燃料化 (小林市での事業)	100.0
枝条	1,182	492		0.0	1,182	492		100.0
竹林(竹材)	2,592	684	竹パウダー	0.2	1,300	343	既存変換利用+オリゴ糖・精油抽出+飼料化	50.1
合計	149,491	16,049		87.4	147,576	15,532		96.8

バイオスタウン構想概要図

(バイオスタウン構想書からコピー)

図 5. バイオマスコンビナート型複合変換システムの全体構図



実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)